

—けいとう—

けいとう

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型・病虫害名												
3 月 ま き 露 地			↑ ● は種	↑ ▲ 定植								
5 月 ま き 露 地					●	▲						
疫 苗 立 枯 病												
茎 腐 病												
輪 紋 病												
ア ザ ミ ウ マ 類												
ア ブ ラ ム シ 類												
シ ロ オ ビ ノ メ イ ガ												
ヨ ト ウ ム シ 類												
ハ ダ ニ 類												
ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ												

疫病

留意事項

1 QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 切花栽培の場合、連作地での育苗を避ける。
- 2 被害株は、株元の土とともにほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 排水、通風、日当たりを良好にする。
- 4 切花栽培の場合、土の跳ね上がり防止のために、わらまたはポリフィルムでマルチングを行う。
- 5 花苗・鉢栽培の場合、下記の薬剤を施用する。

・ [ユニフォーム粒剤](#) <<11>><4>

【花き類・観葉植物(ポット・プランター等の容器栽培、除きく)

土壌1L当たり0.25~0.5g 土壌混和 鉢上げ時/3回】

・ [オラクル顆粒水和剤](#) <21>

【花き類・観葉植物(ポット・プランター等の容器栽培) 2000倍 土壌かん注

ポット使用土壌約1L当り100mL 鉢上げ時又は鉢替え時又は生育期/3回】

苗立枯病

留意事項

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 ホーマイ水和剤を使用する場合、薬液の温度はなるべく10℃以下を避ける。
- 2 ホーマイ水和剤の成分チウラムの総使用回数は、1回。

防除方法

- 1 連作地での育苗を避ける。
- 2 多湿を避ける。発芽後は、風通しをよくして徒長を防ぐ。
- 3 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <ー>
【花き類・観葉植物 苗立枯病(リゾクトニア菌) 20～30kg/10a
は種または植付前/1回】
- 4 は種前の種子に下記の薬剤を処理する。
 - ・ [ホーマイ水和剤](#) <M3> <1>
【種子重量の1.0% 種子粉衣 は種前/1回】または
【200倍 30分間種子浸漬 は種前/1回】
- 5 発生前に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) <M4>
【花き類・観葉植物(除ばら、りんどう、せんにちこう、コスモス、ひまわり、シネラリア、スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロ) 600倍 ー/8回】

茎腐病

防除方法

- 1 切花栽培の場合、連作を避ける。
- 2 未分解有機物の投入は本菌の増殖を促進するので、避ける。
- 3 土壌水分が多いときに発病が多くなるので、排水を良好にする。
- 4 切花栽培の場合、多発ほ場では土壌消毒を行う。
 - ・ [キルパー](#) <ー> 【花き類・観葉植物 茎腐病(リゾクトニア菌)
原液として60L/10a は種又は定植の15日前まで/1回】
- 5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) <M4>
【花き類・観葉植物(除ばら、りんどう、せんにちこう、コスモス、ひまわり、シネラリア、スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロ)
600倍 ー/8回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【1500～2000倍 ー/5回】
 - ・ [リゾレックス水和剤](#) <14>
【花き類・観葉植物 500～1000倍 土壌かん注 3L/m² 生育期/5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

輪紋病

防除方法

- 1 切花栽培の場合、連作を避ける。
- 2 被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 排水、通風、日当たりを良好にする。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) < 1 > 【1500～2000倍 ー／5回】

アザミウマ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では、開口部を防虫ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- 2 ほ場内外の除草を行う。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) < 5 >
【花き類・観葉植物(除りんどう) 2500～5000倍 発生初期／2回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) < 6 > 【花き類・観葉植物 2000倍 発生初期／5回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 < 4 A >
【花き類・観葉植物(除ストック、りんどう) 2000倍 発生初期／5回】
 - ・ [ジェイエース水溶剤](#) < 1 B >
【花き類・観葉植物(除ばら、きく) 1000倍 発生初期／5回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では、開口部を0.8mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- 2 ほ場内外の雑草を除去する。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) < 4 A >
【花き類・観葉植物(除きく) 2000～3000倍 発生初期／5回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A >
【花き類・観葉植物(除はばたん) 2000～4000倍 発生初期／6回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [コルト顆粒水和剤](#) < 9 B >

【花き類・観葉植物(除チューリップ) 4000倍 発生初期／4回】

- ・ [ジェイエース水溶剤](#) < 1 B >

【花き類・観葉植物(除ばら、きく) 1000倍 発生初期／5回】

4 施設では、くん煙剤の使用も有効である。(Ⅻ省力安全防除 1くん煙 参照)

シロオビノメイガ

防除方法

1 ほ場周辺の除草を行う。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [カスケード乳剤](#) < 1 5 > 【2000倍 発生初期／3回】

- ・ [ノーモルト乳剤](#) < 1 5 > 【2000倍 発生初期／2回】

ヨトウムシ類

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

2 コテツフロアブルは府内のけいとうで薬害の報告があるため、注意する。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [アフーム乳剤](#) < 6 > 【花き類・観葉植物 1000倍 発生初期／5回】

- ・ [プレオフロアブル](#) < UN >

【花き類・観葉植物 ハスモンヨトウ 1000倍 発生初期／4回】

- ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) < 2 8 >

【花き類・観葉植物(除きく、りんどう) ハスモンヨトウ
2000倍 発生初期／4回】

- ・ [コテツフロアブル](#) 劇 < 1 3 >

【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍 発生初期／2回】

ハダニ類

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

2 ナミハダニは薬剤抵抗性が生じており、効果の劣る薬剤も出てきているため、薬剤選択は特に注意する。

3 コテツフロアブルは府内のけいとうで薬害の報告があるため、注意する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ダニオーテフロアブル](#) <33> 【花き類・観葉植物 2000倍 発生初期／2回】
- ・ [カネマイトフロアブル](#) <20B>
【花き類・観葉植物(除ばら、きく、カーネーション、デルフィニウム)
1000倍 ー／1回】
- ・ [バロックフロアブル](#) <10B> 【花き類・観葉植物 2000倍 発生初期／1回】
- ・ [ダニトロンフロアブル](#) <21A>
【花き類・観葉植物 1000～2000倍 発生初期／1回】
- ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13>
【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍 発生初期／2回】

ネコブセンチュウ

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 土壌消毒を行う。(XⅢ 土壌消毒 参照)
 - ・ [ネマキック粒剤](#) <1B>
【花き類・観葉植物(除きく) 20kg／10a 全面土壌混和
植付前又は定植前／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。